

注意喚起情報

米づくり技術情報 No.17

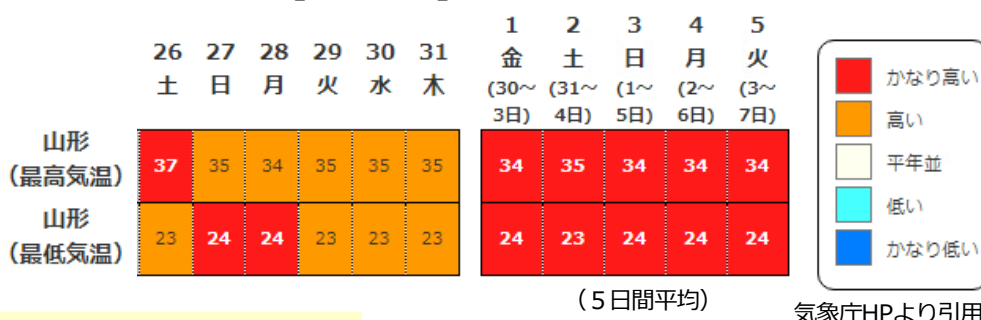
令和7年7月25日

猛暑が続く予報！花水の時期です！

用水は効率的に利用して、地域全体に行き渡るようにしましょう！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

7月25日発表の2週間予報では、最高気温、最低気温ともに高い予報です。高温の影響で出穂が早まっており、「はえぬき」「雪若丸」の一部の圃場では、すでに出穂がみられています。



当面の技術対策

■ 出穂を確認したら直ちに入水

◎ 用水が確保できる場合

→ 穂揃期までは湛水状態を保つ

◎ 用水が十分に確保できない場合

→ 湿潤状態を保つ（飽水管理を行う）

出穂・開花期の干ばつは不稔粒や穂の出すくみの原因となり、減収や品質低下につながります。

用水不足の影響で、田面が白乾亀裂している圃場が散見されます。地域全体に用水が行き渡るよう、「番水」や「用水の循環利用」などの対策を検討しましょう。

また、こまめに圃場の見回りを行い、畦畔や水尻から漏水していないかよく確認し、水が行き渡ったら速やかに水口を止め、用水の有効利用に努めましょう。

■ 穂揃期以降は飽水管理を実施

高温年の必須技術！



飽水管理の様子

飽水管理は、地温を下げ、土壌を酸化的に保つことができます。高温年では飽水管理を行うことで、白未熟粒の発生を抑制することができます。また、フェーン現象が懸念される場合は速やかに湛水して、イネを高温と乾燥から守りましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！